


# 行政視察（研修）報告書

【新庄市議会】

行政視察（研修）名		共に創る市民の会 行政視察（沖縄県沖縄市、読谷村）	
会派・議員名		共に創る市民の会 (所属議員：坂本健太郎、田中功、伊藤健一、今田浩徳 )	
期 日		令和7年4月16日（水）～4月18日（金）	
①	日 時	令和7年4月16日（水）	
	視察（研修）先	山形の塔	
	調査項目 及び内容	調査項目	沖縄戦の悲劇を学び、平和の大切さを考え、戦没者を慰霊する。
		具体的内容 所感	沖縄戦で亡くなられた山形県出身者を慰霊するための碑を訪問した。遠く離れた沖縄の地に、郷土出身者の多くの命が失われた事実を前にすると、戦争の悲劇は決して一地域だけの出来事ではなく、日本全体の歴史として受け止めるべきものであると改めて感じた。  慰霊碑には県民の深い思いが込められており、戦後七十年という節目を経た現在においても、なお慰霊と平和への祈りが静かに息づいていることが伝わってきた。名を刻まれた方々一人ひとりの背後には、それぞれの人生や家族の歴史があったことを思うと、同郷の者として深い哀悼の念を覚えた。  平和は決して当たり前を与えられているものではなく、多くの犠牲の上に成り立っていることを再認識し、戦争の記憶を風化させることなく次世代へ伝えていく責任の重さを感じた。  【写真】山形の塔


			
②	<b>日 時</b>	令和7年4月16日（水）	
	<b>視察（研修） 先</b>	沖縄県糸満市の平和祈念資料館（沖縄戦関連施設）	
	<b>調査項目 及び内容</b>	<b>調査項目</b>	沖縄戦の実相を伝えるために設けられた施設で、平和祈念公園内にあり当時の住民の暮らしや戦場の惨状を示す写真・映像・遺品などが展示されている。
	<b>具体的内容 所感</b>	<p>平和祈念資料館では、写真、映像、遺品、証言記録などを通じて沖縄戦の実相を学んだ。展示は単なる歴史資料の集積ではなく、戦争が住民の暮らしや地域社会そのものを破壊していった現実を具体的に伝える内容であり、一つひとつが非常に重く受け止められた。</p> <p>特に、戦火の中で多くの住民が命を落とした記録や、家族を失った方々の証言は胸に迫るものがあった。兵士だけでなく、女性や子ども、高齢者までが戦禍に巻き込まれたことから、戦争が日常生活そのものを奪うものであることを痛感した。</p> <p>現地の職員の方々や資料館の構成からは、『戦争の記憶</p>	


			<p>を風化させず、平和の尊さを語り継ぐ』という強い使命感が伝わってきた。戦後七十年の節目にこの地を訪れた意義は大きく、平和を守り続けることの大切さを改めて深く認識した。</p> <p><b>【写真】 平和祈念資料館</b></p> 
③	<p><b>日 時</b></p>	<p>令和7年4月17日（木）</p>	
	<p><b>視察（研修） 先</b></p>	<p>道の駅嘉手納、嘉手納基地 読谷村行政視察（シムクガマとチビチリガマ）</p>	
	<p><b>調査項目 及び内容</b></p>	<p>調査項目</p>	<p>嘉手納基地と隣接する道の駅を視察し、基地の影響や騒音問題、地域経済への影響を調査し、基地と共存する街づくりの課題と可能性を考察する。</p> <p>シムクガマとチビチリガマを視察し、住民の戦争体験の違いを学び、平和教育の在り方や戦争遺跡の保存・活用の課題を考察。</p>
	<p>具体的内容 所感</p>	<p>道の駅嘉手納と嘉手納基地を訪問し、騒音測定結果や展示内容から、基地が住民の日常生活に与える影響の大きさを実感した。資料や説明で理解していた以上に、実際に現地で受ける圧迫感は強く、基地と生活圏が隣り合わせにある現実の重みを感じた。</p>	

現地ガイドの方からは『基地経済』という言葉も聞き、基地は騒音や事故不安など大きな負担を与える一方で、雇用や地域経済の一部を支えているという現実もあることを学んだ。平和を願いながらも、生活や経済の面では基地に依存せざるを得ない側面があり、そのことが沖縄の大きな葛藤になっていることを強く印象づけられた。また、シムクガマとチビチリガマを訪問し、同じ地域の中でも住民の行動や結果が異なったことから、極限状態に置かれた人々の選択の重さを考えさせられた。地元の方々が悲劇を後世に伝えようと努力されている姿勢に心を打たれ、平和教育と戦争遺跡の保存継承の重要性を改めて感じた。

**【写真】 道の駅嘉手納**



			<p>ガマ（避難洞窟）</p> 
④	<p>日 時</p>	<p>令和7年4月17日（木）</p>	
	<p>視察（研修） 先</p>	<p>沖縄市行政視察（沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート等）</p>	
	<p>調査項目 及び内容</p>	<p>調査項目</p>	<p>戦後の沖縄市の復興や独自文化の形成を学ぶことにより米軍統治下での社会の変化や基地の影響、音楽・芸能文化の発展を知り、沖縄の戦後史を理解する。</p>
<p>具体的内容 所感</p>	<p>沖縄市では、戦後の復興過程や独自文化の形成について学んだ。戦争によって深い傷を負いながらも、米軍統治下という特殊な歴史的状況の中で、人々が地域社会を再建し、生活を築き直してきた歩みを知ることができた。</p> <p>音楽・芸能などの独自文化が困難な時代の中で育まれてきたことを知り、沖縄の人々のたくましさと創造力に深い感銘を受けた。文化は単なる娯楽ではなく、苦難を乗り越える力であり、地域の誇りやアイデンティティを支える大きな役割を果たしてきたものと感じた。</p> <p>その一方で、こうした戦後の復興や文化形成の背景には基地の存在が深く関わっており、発展と依存、苦悩と創造が複雑に重なり合っていることも学んだ。沖縄の戦後史を理解する上で、その重層的な現実を丁寧に見ていく必要があると感じた。</p>		

			<p>【写真】 沖縄市ヒストリート</p> 
⑤	<p>日 時</p>	<p>令和7年4月18日（木）</p>	
	<p>視察（研修） 先</p>	<p>嘉数高台（普天間基地見学）</p>	
	<p>調査項目 及び内容</p>	<p>調査項目</p>	<p>嘉数高台を視察し、沖縄戦の歴史を学び、基地問題や平和行政の課題を考察し、戦争遺跡の保存・活用の可能性を探る</p>
<p>具体的内容 所感</p>	<p>嘉数高台から普天間基地周辺を視察し、基地が住宅地や学校、生活道路に極めて近接して存在している状況を確認した。報道や資料で見聞きしていた以上に、住民生活のすぐそばに基地がある現実は大きな衝撃であり、地域の安全や安心な暮らしとの両立の難しさを痛感した。</p> <p>この場所は沖縄戦の歴史を学ぶ場であると同時に、現在進行形の基地問題を見つめる場でもあり、過去と現在が地続きになっていることを強く実感した。沖縄戦の記憶を今に伝える場所から、なお大きな基地負担を抱える現状を見ることで、戦後が決して過去だけの問題ではないことを改めて認識した。</p> <p>平和行政とは、単に戦争反対を唱えるだけではなく、住民が安心して暮らせる生活環境をどう守るか、過去の歴史をどう伝え続けるかという現実的な課題に向き合うことでもあると感じ、その必要性を再認識した。</p>		

<p style="text-align: center;"><b>まとめ</b></p>	<p>今回の行政視察は、戦後七十年という大きな節目を意識しながら、沖縄戦の実相、戦後復興、そして現在の基地問題までを一連の流れとして学ぶ大変有意義な機会となった。</p> <p>山形の塔や平和祈念資料館、シムクガマ・チビチリガマなどの視察を通じて、沖縄戦が多くの住民を巻き込み、地域社会に計り知れない犠牲をもたらしたことを改めて痛感した。現地では、戦争は決して過去の出来事として片付けられておらず、いまだに他人ごとではないつらい経験として語り継がれ、平和の尊さが強く訴えられていたことが印象的であった。</p> <p>同時に、嘉手納基地や普天間基地周辺、沖縄市での視察を通じて、基地が住民生活に大きな影響を与えている一方、地域経済の一部が基地関連に依存している事実も学んだ。平和を願い基地負担の軽減を求めながらも、生活や雇用の面では基地と無関係ではいられないという構造には大きな葛藤があり、問題の深さと複雑さをあらためて認識した。</p> <p>今回の視察は、平和と生活、歴史と現在、理想と現実が複雑に交差する沖縄の現実を現地で直接学ぶ貴重な機会であり、非常に有意義な行政視察であった。</p>
<p style="text-align: center;"><b>移動手段</b></p>	<p>中部広域市町村圏事務組合による随行案内</p>
<p style="text-align: center;"><b>宿泊先</b></p>	<p>沖縄グランメールリゾート 〒904-2174 沖縄市与儀 2-8-1 (098-931-1500)</p>